

## 亀田地区公民館運営審議会会議概要

亀田地区公民館

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                 |     |     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|
| 実施年月日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 第 6 期 第 1 回 亀田地区公民館運営審議会 平成 29 年 6 月 26 日(月)実施                                                  |     |     |
| 会 場                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 亀田地区公民館 講座室 1                                                                                   | 傍聴人 | 0 人 |
| 出席者<br>(委員)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 石澤正明(議長)、石田正文、大沢美子、小見直樹、坂井幸恵、田村智江(副議長)<br>森知之、横木春三 [敬称略]                                        |     |     |
| 出席者<br>(事務局)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 亀田地区公民館：伊藤義則(館長)、辻崇(主任)、笠原園子、阿部香苗<br>小林弥生<br>曾野木地区公民館：樋口栄子(館長)、山際結城、小池義信<br>横越地区公民館：池田忠(館長)     |     |     |
| 議 題                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | (1) 平成 28 年度事業報告について<br>* 事業評価シート<br>(2) 平成 29 年度事業計画について<br>* 平成 29 年度新潟市公民館事業の基本方針<br>(3) その他 |     |     |
| 審議された議題について、以下に記載する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                 |     |     |
| <p><b>1. 開会</b><br/>館長あいさつ</p> <p><b>2. 正副議長の選任について</b><br/>議長に石澤委員を、副議長に田村委員を選任<br/>議長、副議長あいさつ</p> <p><b>3. 議事</b><br/> <b>(1) 平成 28 年度事業報告について</b><br/>                     亀田地区公民館(説明者：伊藤、阿部)<br/>                     曾野木地区公民館(説明者：山際)<br/>                     横越地区公民館(説明者：池田)<br/>                     ー質疑応答等ー<br/>                     (石澤議長)<br/>                     それぞれの公民館から平成 28 年度の事業報告がありました。これにつきまして、皆さんから聞いてみたいこと、あるいはご意見などがありましたらお願いしたいと思います。<br/>                     (坂井委員)<br/>                     報告書でどうしても見てしまうのは、数字の部分になるかと思うのですが、募集人数を掲げて、それに対する参加者数が明らかに定員割れしているなどというのがいくつかあるかと思うのです。例えば、亀田地区のゆりかご学級、幼児期学級、子ども体験事業も少し少ないかと思いました。<br/>                     大江山も地域の茶の間が、延べ数が 53 で回数が 12 ということは、1 回当たり四、五名と少ないのかと思います。</p> |                                                                                                 |     |     |

(田村委員)

これは間違いだと思います。数字的には全然違います。

(坂井委員)

そこが気になりました。

家庭教育学級に関して、私のイメージでは募集が多く、なかなか抽選で落選してしまう方もいるようなイメージがあったのですけれども、亀田のほうで定員割れしている理由は何かありましたか。

(伊藤館長)

まず今、お話があった大江山の地域の茶の間ですが、53ではなく、もっと多いでしょうか。

(田村委員)

4月から3月の1年間行われています。人気の講座ですと1回で四、五十人は集まっています。大江山荘と大淵荘の二ヶ所で隔月でやっているのですが、平均して30人以上は確実にいます。それを12か月していますので0がひとつ抜けているのではないのでしょうか。

(坂井委員)

実際はもっと多いということですか。

(田村委員)

実際はすごく多いです。

(伊藤館長)

そうしましたら、こちらのほうで統計として数に入れているものとそうじゃないことがあるのかもしれないので、後ほど確認させてもらいます。ほかの事業を含めての参加人数ですが、確かに今年度も、下回ったものがあります。後ほどまた説明をさせていただきますが、父親学級でも定員を大きく下回るような状況です。これについて、何が原因かというところを広く見れば、さまざまな要因があると思うのですけれども、この春から我々のほうでできるだけ大勢の方の目に触れるような広報を考えています。

その一つとして、これまで公民館ではチラシを広報のメイン、他には区だより掲載や館内にポスター掲示、また、他の公民館の掲示板を使わせていただいたりしていたのですけれども、今年度6月から亀田地区公民館では、広報力をもう少し上げようということで、フェイスブックを開設しました。いろいろな職員が講師との打ち合わせをしたりしたときにも、フェイスブックにあげさせていただいたりしながら、さまざまな方へ情報発信をさせていただいています。他にも広報手段はあると思いますし、講座を実施しましたという報告的な記事の掲載、あるいは日報の取材を受けたりということも含めて、周知という意味では、今後もっとこのツールを強くしていきたいなと思っております。

(坂井委員)

広報と企画の二つが連動して、良いものができていくのかなと思います。家庭教育学級に関しては、対象の保護者だけではなく、関心のある方は誰でも受講することができたらいいのではないかと思います。家庭教育学級は保育付きの講座になると思うので、保育の対象の月齢をどれくらいから設定するのかという点もあると感じました。

フェイスブックなのですけれども、私も先日、職員の方からフェイスブックを始めたということを知って見たのですけれども、はじめたのはいいなと思ったのですけれども、まずフェイ

スブックにたどり着くまでの仕掛けというか、入口というものをどのように仕掛けをしていますか。ただ、フェイスブックを作ったというだけではなくて、そこにたどり着くまでの方法というか、そういったところに関してはどうですか。

(伊藤館長)

まず、フェイスブックにたどり着くまでということですが、まず館の入口付近に行事予定が掲示されていますが、そちらにQRコード掲載してスマホ等で撮っていただければご覧いただけるようにしています。

もう一つは、チラシにも掲載したり、各講座で初回は大体、あいさつをさせていただいているのですが、そういうときにフェイスブックを始めましたということに参加者の皆さんにお伝えしています。

これまでも新潟市の公民館は全館でホームページを開設していますが、そのホームページでもリンクを貼らせていただいて、皆様にご案内をさせていただいている状況です。

(坂井委員)

今日もこの会議で、私たち委員向けにQRコードがあったり、もっと広くまちなかにあったり、例えば1か月健診とか、3歳児健診など市であったりしますよね。そういうところに情報が載っていたり、それこそスーパーにあったり、病院にあったり、いろいろなところから入口を作れるようにしてもいいのかと思いました。またフェイスブックの内容も私が見たいのは、職員の紹介があったら、皆さん来たときに、あの人は職員だなとしゃべりかけたりできるし、例えば、今日の運営審議会の会議についても、区だよりには載っていたと思うのですが、一般公開であるということに関していうのであれば、そういう情報があったりしてもいいのかと思います。雲尾先生が先日の研修会で情報のリポートというようにおっしゃっていたと思うのですが、何回もいろいろなところで見られる。人によってはフェイスブックで見る人もいるかもしれないし、区だよりで見る人もいるかもしれないし、いろいろなところにそういう情報が発信できたらいいなと思いました。

あとは講座の紹介などもすごくいいのですが、講座など抜きに公民館に来てみたいと思うような、ちょっとしたネタなどがあってもいいかと思います。例えば、ここから見る景色はこんないいのですよとか、そういう小さいことでもいいのかと思いました。運営審議会のメンバーも、NGかどうか分からないのですが、こういう運営審議会委員がやっているということをフェイスブックで紹介することもありなのではないかと思いました。

(石澤議長)

ほかになれば、次の事業評価にいきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

(坂井委員)

曾野木地区公民館の家庭教育学級について、講座の募集に対して参加者数を増やしてくれていて、保育のほうも毎年、予算オーバーですが何とかがんばっていますということを過去の議事録で見たのですが、保育の予算オーバーはどのようにしたら改善されますか。私たちにもできることはあるのでしょうか。

(樋口館長)

皆さんもご存じだと思いますが、年々公民館全体の予算が削減されているのは間違いございません。江南区としての配当が亀田地区公民館なので、それを横越地区公民館と曾野木地区公

民館に配当されるようになってはいるのですが、過去の実績が引き継がれていて、それを払拭し平に分けてもらえれば何とかなるのかなという気がしないでもないのですけれども、それができるかどうかは別として、もともと旧新潟市の曾野木は本当に予算がなく、その予算のないところに毎年、シーリングがかけられて削られていっているわけですから、当然、なくなるのは当たり前で、来年はほかの事業もできなくなるくらい予算がないのではないかなと思います。昨年の曾野木の事業費は59万9,000円です。この予算ですから歳出オーバーしていますが、これは横越地区公民館から助けていただいて、何とか参加したいという方を断らずに済みました。こういう形で江南区の中で、互い助けあっていくことができたから去年はできたのですけれども、今年は難しいと言われていています。

(坂井委員)

この事業計画には、予算というものが金額で載っているのですけれども、報告のほうには決算というか、実際にかかった支出に関しては載っていないので、今、樋口館長からお話があったように、この区の中でやりくりされていらっしゃるという状況も分からないし、予算と支出の部分に関しては、平成27年度の会議だったと思うのですけれども、過去にも委員から硝子張りに分かるようにしてほしいというような意見が出されていたと思うのですが、例えば、拡大とか、予算アップなどを必要と思われる事業があったとして、実際にあると思うのですけれども、我々運営審議会の委員などが、何らかの形で予算アップの提言ができる場があったとしても、実際、どれくらい足りなくて、どうしたいのかが金額的に見えない部分があるので、もし可能であれば、報告のほうにも決算の段というものを追加していただけたらと思いました。この報告書は新潟市の統一フォーマットなのですか。

(樋口館長)

そうですね。フォーマットは一緒です。

(坂井委員)

例えば、江南区だけで報告書の修正をすることはできるのか。それとも江南区ではできないのであれば、中央公民館へエスカレーションしていただくということは可能なのですか。この要望自体はエスカレーションしてもらおうということはできますか。

(樋口館長)

報告用紙は全館一緒になっています。そして、決算報告を添付するという形はできますよね。

(坂井委員)

追加資料として新たにですね。

さらに、事業報告と事業計画書のフォーマットで、あと二つ要望があります。今、予算だったのですけれども、あとは事業計画のほうに募集人数と見込みの参加者数の記載がないと思うのですけれども、記載されていたほうがその事業の規模を把握したり、規模については予算で把握できるかもしれないのですけれども、公民館の利用者数アップという意味では、公民館事業に携わるすべての人たちの目標設定みたいな意識づけができるのではないかなと思いました。見込みの参加者数や募集人数を記載できますか。

(伊藤館長)

募集予定の人数ですね。

(坂井委員)

そうです。これくらい募集しようと思っています、公民館に来てもらおうと思っていますという意気込みとも言えるような。あとは逆に事業報告のほうに募集人数と参加者数が記載されているのですけれども、これは募集人数を定めている事業に関するのですけれども、実際はどれくらいの応募があったのか。亀田の芸術に親しむセミナーで、定員を大幅に超え、実際68名だったので追加講座をした内容が記載されていたと思うのですけれども、ほかにももし定員を超える応募の事業があったとしたら、どういう対応をしたのか、今後、どのようにしていきたいかというものが分かるかなという意味で、実際に応募のあった人数みたいなものがあたらいいかと思いました。

両川公民館ですけれども、子ども体験教室参加者数5名なのは、数字として見る限り、本当にこの講座がいるのかと思いました。少なくとも必要な事業というのはあると思うのですけれども、やはり数字だけ見てしまうと少ないなと思ってしまいます。今年もありますか。予定はありますよね。

(樋口館長)

今年も少年の事業はやる予定で、日にちも決まりました。今年の担当は後ろにおります小池なので、8月4日(金)、今回はヒップホップダンスを予定しております。地域教育コーディネーターをお願いしたり、児童に声をかけていただいたり、参加人数を増やしたいと思っています。

両川小学校自体が各学年一クラスで20人いれば多いくらいの感じになっている地域です。そして、そのほとんどが休みに入るとひまわりクラブなどに参加する子どもが大勢います。自由に公民館事業に参加できる人数というのが本当に少ないのです。そういったことを考えると、もっと魅力のある事業をやることで、ひまわりにいる子どもたちも公民館の事業に出たいよと言ってくれるようなものをこちらが考えていくことで、少し募集人数を増やしたいなと思っています。それで今年、教育コーディネーターとも相談させていただいた結果、ヒップホップダンスで体を動かすというのはどうかなということで、本当のところどのくらい集まってくれるかということは心配なところではあるのですけれども、でも来てくれた子どもたちが楽しんで帰ってもらえるような事業をこれから講師の先生ともご相談させていただきながらやっているつもりでいますので、よろしくお願いいたします。

(坂井委員)

もう一つあるのですけれども、横越地区公民館ですが、やはり定員割れしている事業が何個かあって、子育てひろばに関しては、人数的には多く皆さん来ていただいているなと感じているのですけれども、でも講座になるとゆりかごだったり、児童期だったり、なぜかと思いました。

婚活のそば打ち体験なのですけれども、これは対象の年齢はあるのですか。

(池田館長)

未婚の方です。

(坂井委員)

年齢は問わないのですか。

(池田館長)

年齢は問いません。

(坂井委員)

3月の議事録を見たときに、中央からの要望とお話しされていたと思うのですが、この婚活の事業というのは、横越だけでやるのですか。

(池田館長)

募集は江南区全体です。以前は新潟日報に取り上げてもらって、上越のほうから参加した人もいらっしかったです。

(坂井委員)

そば打ちはなぜですか。

(池田館長)

今、横越でそばを植えているのです。コミュニティ協議会の前会長が福島へ自分で蕎麦打ちを勉強をしにいった、級を取ってこられているので、地元のそばを使って、新そばを打って、それをネタに若い人たちに来てもらって、カップルになってもらおうかなと思っているのですが、男の人はある程度人数が来ても、女の人はなかなか来ない状況です。

(坂井委員)

地域のものを使ってという意味で、そば打ちというのはいいと思います。

(池田館長)

ゆりかご学級が定員割れしているのは、保育定員が20人なので20人で満杯で、あと10人というのは保育無しなので、保育付の人はお断りしなければならないという状況です。

(坂井委員)

もったいないですね。

(池田館長)

限られた予算で行われているもので申し訳ありません。

(坂井委員)

せっかく公民館に来てみようと思う気持ちがあるのにもったいないと思います。毎年、出ている課題だと思うのですが。

(池田館長)

それは結局、子育てを初めてスタートする人達が公民館に来てくれると将来的にまた公民館とつながっていってくれるということで、非常に大切なのですが、保育付となると保育者の謝礼の関係からも、ゆりかご学級や家庭教育学級の経費というのは、事業費から見ると相当大きな割合です。

(坂井委員)

毎年、利用する人を増やしていきたいけれども、そういうところで予算がなくて、お断りするということがあるから、いつかどこかで是正しないといけないと思います。それが5年、10年たったときに、すごい数になると思うのです。もったいないと思います。どこかに入れるところないですか。

(樋口館長)

家庭教育学級の場合、特にゆりかご学級は、昔は育児休暇制度がないときは、働いていない

親しか参加できなかったのですけれども、今は育児休暇制度があり、きちんと育休を取れる会社が増えてきているので、今なら参加できると思うのです。ゆりかご学級が終わった後は会社にまた復帰されるという人がいるから、このとき、ゆりかごの場合、チャンスがそのときしかないのです。今、これを受けられなかったら一生受けられない人もいるのではないかと考えると、やはり何とかしてこちらの家庭教育学級にもっと予算をつけてもらいたいというのはずっと思っていますが、なかなかそれがかないません。なぜか分からないのですけれども、ぜひ運営審議会の皆さんから声をあげていただきたいと思います。

育児休暇中だから受けられる親が多いということを考えると、なんとか受け入れたいと思いました。ゆりかご学級を申し込んだが断られて、どこも受け入れてもらえなかったのです。去年はいっぱい曾野木地区公民館に申し込んできました。そういう人をもし、曾野木で断ったら、どこも受けられないのです。そうしたら子どもの子育てのことを学ぶ機会を、子育てのことを学んでくださいと呼びかけているのに、そこで断ること自体やはりできなくて、それで横越に助けをもらって、曾野木は何とか全員を受け入れさせてもらいました。ぜひ、ほかの公民館にも予算をもう少し家庭教育支援事業のほうに入れてもらえれば、重点事業にもなっていますし、その辺を考えてもらいたいということは常々言っています。今度、伊藤館長が館長会議でしっかりと行ってくれると思いますので、何とかしてほしいと思っています。

(伊藤館長)

補足ですが、今、横越と曾野木のいわゆる予算のやりくりをしているお話がありました。先ほど言ったように、江南区で一つの公民館事業費というものを管理しています。3館しかない公民館ですので、そこはお互いに話し合いをしながら、よりサービスがいいものになればと思います。家庭教育学級の実施のしかたというのでしょうか。亀田では定員を割っている、これは先ほどお話ししたように広報の部分で原因なのか、対する相手方が少ないからなのか。いろいろな要因はあると思うのですけれども、確かに大勢参加してくれる場所があるということであれば、そういったところに力点を置くということも一つの方法かもしれません。あとは保育つきで公民館で実施するというのも一つかもしれませんが、それ以外にも、例えば、学校を会場に実施するとか、地域のコミュニティセンターですとか、受講できる方の対象によっては、また違うやり方があると思います。その時間帯によっても違うかもしれませんし、民間の会社、あるいは組合等とも連携しながら実施できるようであれば、そういった方法も今後、考えていければと思います。

(坂井委員)

多分、立地もあるのではないのでしょうか。曾野木だといろいろな地区、いろいろな区から車で20分とかで行きやすい場所にあるなとも思うし、亀田や横越などはきれいだし、そういう点ではもったいないなと思います。

(池田館長)

横越は親子グループの利用が多いです。横越地区の人たちではなくて、よそから来る人がけっこういるのです。なぜかという駐車が広いこと、建物や調理実習室もきれいで、床暖房もあるということ。但し、親子グループは減免団体ですので、使用料はかかりません。

(坂井委員)

横越は床暖がありますよね。

幼児期が曾野木と開催時期が6月、7月で重なっています。どちらも行きたいけれども、曜日が違ったりすると思うのですが、連日、子連れは無理みたいな人もいると思うので、区の中だけでも時期をずらすか、横越は床暖があって暖かいので、開催時期を調整するとか。

(池田館長)

保育室だけは床暖ですよ。

(坂井委員)

そうですね。でも、親はいいとして、子供たちが暖かいほうがいいかなとも思うのです。

(池田館長)

私が北にいたときは、北区の公民館では連絡会議というものがあって、家庭教育学級の開催時期がダブらないようにということで、調整会議というものをやって実施していました。それをやることによって、同じ年齢を対象とした家庭教育学級が重複しないように行われていました。各公民館の部屋の空き状況だなど、いろいろあるので、その調整がなかなか難しいのかもしれないかもしれませんが、同じように江南区でもできれば非常にいいと思います。

(坂井委員)

あちらの地区公民館で何月にあつて、その話などもこちらの館でも話せたりとか、いろいろ講座自体も同じ事業の中だったらノウハウの共有みたいな、同じ事業だけではないと思うのですけれどもできると思います。先日、小林さんにお話ししたと思うのですけれども、ゆりかご学級や幼児期で、お母さんは、夫が何を考えているかよく分からないみたいな話しをする人が多いのですけれども、亀田は父親学級があるので、お父さんたちに本音などを事業を通して、お母さんはこう思っているよね、お父さんはこう思っているね。いいことも悪いことも共有したり、事業間でそういう情報のやり取りがあつたりもいいなと。曾野木だと少し話は変わるのでけれども、折り紙サークルの方が保育室に四季の折り紙を展示してくださったりして、それを見て子供たちやそこに来る保護者の人たちがかわいいねとか、かっこういいねという話をして、そういう事業間のやり取りなどいいなと思ったので、そういうものもいろいろあつたらいいかと思います。

(伊藤館長)

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(石澤議長)

では、事業評価シートを館長お願いします。

(伊藤館長)

それでは説明させていただきます。もう数年たっておりますので、何度かお聞きになっているかもしれませんが、この事業評価シートについては、昨年、実施した全事業を評価したものととなります。単一事業ごとにまず評価を行いまして、それを館ごとに集約した評価を行うというものが事業評価となります。各事業とも事業のねらいによる成果、またそれに伴う評価の必要性、有効性、効率性の各項目で評価を行いまして、さらに改善点を踏まえた館長の評価ということで、最終的に縦に並んでいる順序で見ていただくと、最終的な館長の評価となっています。

各館ごとに評価シートを作成しておりますが、裏面を見ていただきますと、江南区公民館運営審議会委員意見ということで、皆様からいただいた意見を後ほど議長、副議長から集約して



いただき最終的に、こちらに記載し、さらに後ほど、ホームページ等で公開させていただくという流れになります。

(石澤議長)

これについていかがですか。

(田村委員)

亀田地区公民館の最初のコミュニティ活性化支援事業です。館長評価はC、Dが1、1とついています。これは下のコメントどおりのことなのかが知りたいと思いました。とても低い評価だったので。

(伊藤館長)

今、副議長からお話がありましたが、A、B、C、DとなるとDがどうしても低く見られがちなのですけれども、これについては逆に公民館としては非常にいい形で事業が廃止になりました。結果だけを書こうとすると、どうしてもDの場所に1が入ってしまいますが、CとDの内訳を申し上げますと、Cがお亀楽縁(おきらくえん)、Dが大江山の地域の茶の間です。この地域の茶の間については、今まで公民館がかかわって実施をしていましたが、大江山のコミュニティ協議会が、自立し自分たちで事業ができるということでお話をいただき、我々としては非常にいい形で地域に引継ぎができたというものです。

(田村委員)

一言、書いてあるといいですね。

(伊藤館長)

そうですね。言葉足らずで申し訳ございません。

もう一つのお亀楽縁のCの評価ですけれども、今までかかわってくださっていたスタッフの方が、家庭の事情等がありまして抜けられたということです。大江山と比較するのもどうかとは思いますが、やはり地域の方からスタッフに入っていて、いずれは自立していけるような場所を我々としても作っていきたいということで、今後、そこを課題に取り組んでいこうということから、今回は少し厳しいですがCの評価になりました。

(坂井委員)

評点の数字についてなのですが、必要性、有効性、効率性の評点というのは、この裏面の評点の観点というところの項目でついているのですか。有効性の4というのは、1、2、3までしかなくて4はないのですけれども、私が先日、先に樋口館長に質問させていただいて、この1から3のすべてが該当というのが4だと伺ったのですけれども、それが書いていなかったのを見たときに分かりませんでした。もし可能なら修正をしてください。これは市のホームページにも、会議資料としてアップしますよね。一般の方が見たとして、4って何だろうと私みたいになるかと思ったのでお願いしたいです。

(伊藤館長)

実際、項目として、今、お話があったように、3項目しかないのに何で4なのだろうとなるのですけれども、先ほど、ご説明したようにそれぞれ個別の事業ごとの評価がございます。個別の事業を評価するにあたって、今の館の事業評価シートの裏面をご覧くださいますと、有効性については1番、2番、3番で「はい」か「いいえ」で我々は評価をします。この項目については、樋口館長から説明させていただいたように、三つすべてに丸がついた場合は、4

点にしましょうということで、我々のほうで一応、ルールを決めさせていただいております。それぞれ4点満点になっているのです。逆に必要性については5項目あるのですが、五つ〇がついた場合、4点にしましょうと。四つから三つの場合は3点にしましょうということで、それぞれの評価の満点の点数を4点にそろえるために、若干、数字の点数操作をさせていただいているということになります。ホームページ公開の際には、この議事録を掲載させていただきまして、事業評価シートのほうにも若干追加があれば、こちらで記載させていただきたいと思っております。

(石澤議長)

ほかにご覧いませんか。また、気がついたらお願いしたいと思っております。

## (2) 平成 29 年度事業計画について

亀田地区公民館 (説明者: 伊藤、阿部)

曾野木地区公民館 (説明者: 樋口、山際)

(補足: 坂井委員)

横越地区公民館 (説明者: 池田)

— 質疑応答等 —

(田村委員)

亀田地区公民館と大江山公民館なのですが、大江山は予算ゼロですよ。この差は何だろうと、一住民としては本当にそう思います。大江山と両川はもう少し光を当ててくださいと、毎回、言っているのですけれども、なかなか対応されていないと思います。例えば、亀田は市民文化展で20万円以上も予算がついています。大江山の文化とスポーツの祭典も同じような内容なのですが、これがゼロ円です。この差が一体どこから来ているのかなと思います。予算の配分というのは各館で自由に館の裁量でされているということですよ。それでよろしいですか。

(伊藤館長)

はい。

(田村委員)

この差がどうしてなのかなということですよ。それについては、両川もゼロ円ですよ。5地区あるわけですので、もう少し2地区についても光を当てていただきたいというのが1点です。

次に連続講座というのはものすごくネックだと思います。例えば、学校への出前は各地区持ち回りなのではないでしょうか。

(事務局)

そうではないです。

(田村委員)

この出前講座は、昨年も人数が足りなかったみたいで、私のところに参加していただけてませんかというお電話をいただいたのですけれども、連続講座ですと、私も予定がいっぱいで、2回なら出られますけれども、ほかのところは出られませんと言ったら、ではだめですねと担当の方がおっしゃったわけです。そういうことはけっこうあると思います。父親学級は8回の連続講座ということですのですごいですよね。連続して出るというのは大変なことなのです。見ただけでうんざりです。こんなに出られないよ、忙しくてと思うのが親です。そうしたときに、参加

人数の少ない連続講座の在り方をもう少し考えていかないといけないのではないかとということが2点目です。予算のことと、連続講座の2点を考えていただきたいです。

それから、出前講座の内容ですが、人を集めるにはもっといい講座を開いていく必要があります。例えば、学校給食などすばらしいと思うのです。学校を知っていただく、学校をひらくという意味では、ものすごくいいなと思って聞いていました。地域の方たちに学校に足を運んでいただいて、協力を願う。そういう見越した講座を組んでいかないといけないのかなと思いました。この3点がまずとても感じた点です。

曾野木は児童期の学級がないですね。ほかのところは三つあるのが、曾野木の場合、児童期がないのですがどうしたのかなということを感じました。

(伊藤館長)

すべてにおいて納得いただける内容かどうかは分かりませんが、私が今まで引継ぎを受けてきた中での話をさせていただきたいと思います。まず、大江山の公民館は予算が確かにゼロです。今まで文化とスポーツの祭典には、公民館の予算を使っておらず、地域のコミュニティ協議会などの予算で行っています。

(田村委員)

多分、要求ができないのではないかと思っているのではないかと思います。違いますか。

(事務局)

文化とスポーツの祭典については、大江山の文化とスポーツの祭典実行委員会という中で予算がついたり、社会福祉協議会からお金が出ています。

(田村委員)

分かりますけれども、それに対して亀田の文化の祭典にもものすごい予算がついているのがどうなのかと思いました。予算づけが少し異常に感じたのですが・・・。

(伊藤館長)

確かに、今、この事業計画を見ますと、大江山の事業は一つですね。ここに予算がついてなくて、当然のことながらゼロに見えてしまうのですが、先ほど、ふれあいスクール等のお話も出ていましたけれども、この4月から各小学校、中学校も含めてですが、公民館の職員で担当を決めさせていただきました。今、亀田地区公民館の館内、小学校と終わりまして、コーディネーターと話をさせていただいたり、校長先生とお話をさせていただいたりしながら、まずどういったふれあいスクール等ができるのか。公民館として何か一緒にかかわれることがあるのかどうかというあたりをお話しさせていただいています。今現在、ここには予算は当然載っておりませんが、大江山のほうでは丸山小学校から少しこのようにやりたいのだけれどもということで、相談がすでに来ております。ほかの小学校からも若干、話が来るようになってきて、正直、この事業計画の時点では、まだ載せられていないのですが、何とか予算を調整しながら各地区、あるいは学校でこの辺の事業を行いたいなと思っております。

父親学級、家庭教育学級、連続講座全体的に言えることだとは思いますが、これまで新潟市が家庭教育学級を行ってきた一つの理由としては、いろいろなことを子育て中の保護者の方に学んでいただきたい、情報を提供していきたいということがあると思うのです。また、それと一緒に集まった仲間が今後もつながっていけるような仲間づくりの場としていただきたいということもあって、1回だけだとなかなかそういったところは難しいのではないかと

ということがあります。それから、一つのコマだけではなかなか伝えきれず、二つ、三つ受けていただいたところでようやく一つの成果があるということもあろうかと思えます。ただ、田村委員のおっしゃるように、8回全部出られるかということ、なかなか難しいという状況も当然あろうかと思えますので、これは公民館のほうでも常に話をしているのですけれども、例えば、8回の講座だけれども、3回出られない。参加してはだめかということへの対応のしかたですとか、あるいは昨年もそうですし、ほかの公民館でも、私の前の公民館でもそうだったので、長い講座を、例えば、今回であれば8を4の4に分けて、違った内容でまた実施してみるとかということです。ただし、そこにはあくまでも公民館として、こういう目的を達成したいのだという前提のもとで、それを4回にするのか、3回にするのか。やはり5回は最低必要なのかといったところを考えながら今後も実施を前向きに考えていきたいと思えます。今、田村さんがおっしゃることは、今の保護者の方にとってはもっともお話で、今後、こちらとしても、そこは考えていきたいと思えます。

それから、出前講座の内容でしょうか。先ほど、お話ししたように、今、コーディネーター、各学校の担当の先生方と若干お話をさせていただきはじめたところで、これからそれぞれの立場から少しずつお話をお伺いしながら、内容を固めていきたいと思っております。

(横木委員)

きっと内容についてはよく分からないところもあるので、予算的な部分についてお聞きしたいと思えますけれども、平成28年度の事業計画でいくと、トータル438万円の予算で、今年の平成29年度を見ると405万円で約8パーセントの減だと思えますが、その中で曾野木は少し増えたようですね。

毎年、予算が厳しいので、少しずつ減っているということもあるのかもしれませんが、そんなに大きな金額が載っているわけでもなく、事業をやっている、このくらいのものでやっていけるものなのかということは、私も具体的なものがよく分からないのですけれども、事業内容の3番の家庭における教育向上の支援する事業だとか、青少年の生きる力だとか、地域コミュニティ活動うんぬんというものもやっていますので、かなり江南区なら江南区の中でも核となるような部分を担われているのではないかと思うのですが、その割に予算が少ないのではないかと思うのです。一つ一つ何万円で、一人1,000円とか、そのようなことでやっていくわけだけれども、こういったものでできるのかどうかというものが疑問なのです。新潟市の予算も若干縮小気味ではあるのだけれども、こういった事業にはお金をかけてもいいのではないかと思うのですが、そういったものを例えば、こういう審議会の中でも、プラスしてほしいということを書いてもらうことがあってもいいのではないかと思えます。10万円くらいの金額ならすぐ出るでしょうみたいに思いますが・・・。

(伊藤館長)

おっしゃるとおりで一つの事業にかけている予算というのは本当に少ないのです。皆さん、これを見ていただくと分かるように。大半が講師謝礼といわれるもの、あとは若干消耗品、必要なものを購入するお金。家庭教育学級であれば、子供の保育に使ったものをクリーニングするようなお金が若干かかっております。毎年、予算が少しずつ減らされていっているのは現実のところ、ただ、公民館でなぜこんなくらいのお金で事業ができるのか。参加費をけっこう取っているのかということとそうでもないです。実際、実費負担しかいただいでなくて、500円

くらいの参加費でさせていただいているのですが、曾野木、横越の両館長が昔から新潟市の公民館でやっているように、たくさんの講師の皆さん、いろいろな人材に支えられて公民館の事業というのは今現在、実施されているところだと思うのです。今ほど話がありました、先ほど、坂井委員からもありましたが、これから運営審議会の議長の会議ですとか、部会ですとか、いろいろな集まりが今後もあるかと思えます。この亀田の運営審議会から直接的なご意見を中央にあげていくということは難しいかもしれませんが、そういった機会をまた見つけて、ご進言いただけたらいいのかと思えます。限られた予算ですけれども、できるだけ江南区の中でよりよい運用方法を今の現状では見つけていくしかないと思えます。

(横木委員)

記載方法ですけれども、足さないとトータル金額が分からないので、表にさせていただくか、事業報告の結果のほうにも決算をつけていただきたいと思えます。

(伊藤館長)

全館の合計をでしょうか。

(横木委員)

それも大事だろうとは思えます。

(坂井委員)

収支報告書ではないですけれども、1枚だったらもっと分かりやすいのかなと思えました。

(伊藤館長)

内容はこちらで検討させていただきます。

(坂井委員)

予算が少ないという話で、私は企画委員などをしていて、職員の方々がいつもいろいろな先生やこういうことなどがやりたいということを一生涯懸命探してきてくれて、いつもありがたいと思っています。それを言いたかったです。すごくがんばってくださっているの、いつもありがとうございますと思っています。

連続講座に関しても、私も企画をしている側からすると、こういうことを受講者の人に伝えたいから、やはり5回必要だし、全部出てほしいというのが企画側としても思いがあります。父級学級については、こういう思いがあって8回にしていますということが、もっと明確に出たらいいのかと思えますし、私も5回の講座をやって、一つもみんなに逃さず聞いてほしいと思って企画しているので、そういう思いもあります。連続の講座のところでは、もっと皆さんに分かりやすくお伝えできたらいいなと思えました。

(池田館長)

これまで横越の子ども対象事業は、丸山小学校には募集をかけていなかったのですが、今年度から横越地区公民館にも来てほしいということで、丸山小学校にチラシを配布しました。

(田村委員)

横越団地が丸山小学校のすぐ前にありますので、ぜひこれからも交流をお願いします。

(伊藤館長)

もう一つ補足で私のほうから。今年度、この江南区文化会館という複合施設で、公民館、図書館、資料館がございまして、みんなで一つの事業をやってみようかじゃないかということで、9月16日(土)に連携した事業を行う予定です。学校みたいに言えば1限が図書館、2限が資

料館、3限が公民館というようなかたちで、3コマを1日に実施して、途中にカフェもごさいますので、給食の時間みたいなものを取りつつ、午前、午後の講座を企画しております。先ほど、田村委員からもお話しありましたが、この講座については、事前の申し込みももちろん受け付けますが、当日、たまたま通りかかった方が興味を持って聞いてみたいという方についても、席を若干確保して、その場で立ち寄れるような形も取りたいということで、少し試験的な事業になりますが開催を予定しております。もし皆さんよければ、ぜひご参加いただければと思います。

(坂井委員)

父親学級はまだ9月までであるので、企画としてはこの内容でもう決まっていると思うので、あとは広報の部分で何かできるかな、まだまだできるかなというところを一緒に考えられればと思うので、私も何かあれば、アイデアになるか分からないですけども、お伝えさせていただこうと思います。

(事務局)

公民館のホームページやフェイスブックに掲載し、企画委員の協力での周知や小学校などへのチラシの配布もしたのですが、参加者は伸びず、新聞に掲載されて1人増えたくらいでした。

(坂井委員)

ビラの1,000分の1来ればいいということがありますので。

(田村委員)

私も経験ありますけれども、調査したことがあって、一番人が集まるのはロコミです。チラシはほんの一部しか、今、1人とおっしゃいましたけれども、チラシも大事なのですけれども、それ以上にロコミが大切です。いい企画をすれば、必ずいいよということがロコミで広がっていくので、企画の内容も大切ですが、やはりすべてが人なのです。それが大事だと思います。

(事務局)

体験が少なく座学を多めにしてしまったということもあるのですが、昨年はおさかな講座や調理実習があったり、体育館での開催があったりしました。今年度は体を動かすのは体育館だけで、企画委員のみなさんからは、父親学級だから学びたいということで、今回は座学中心となりました。

(田村委員)

企画委員に男性が入っていましたか。

(事務局)

全員男性です。

(田村委員)

そうなのですか、失礼しました。それはすばらしいですね。

(事務局)

お互いの間でも言っていたけれども、公民館というだけで公の施設だから欠席しづらいよね、全部出ないとだめだよねと、こういうところに来てくれそうなまじめな人ほど欠席に遠慮してしまう。ロコミというか、企画委員が手撒きでやったときも断られてしまったという話はされていきました。

(坂井委員)

父親学級はお母さんがフリーになる時間があるって、お母さんがいいなと思って、お父さんに行ってきたよと勧めたりとか、実際、学習なので全然かけ離れてしまうのですが、お父さんが自分の子供に自慢できることって何かという種類もいっぱいあると思うのです。学習ではないのですが、30代、40代くらいの方だと、子供のころ、ラジコンやミニ四駆など作って遊んだということをお父さんと一緒にやるなど、学習につなげるのは難しいと思うのですが、今後の検討材料になったらいいかと思いました。

### (3) その他

(石澤議長)

その他に事務局からありますか。

(事務局)

特にありません。

(石澤議長)

事務局ではないということですが、委員のほうでなければ、ここで第1回の運営審議会を終了したいと思います。皆さん、ありがとうございました。

## 4. 閉会

副議長あいさつ